

人間が生きる意味。それは人を助け又助けられ、遊び心の中に喜び勇む道、「陽気遊山」にある。自分の身体、又、この世の全ては、陽気遊山の為に借りている物で、心のみが自由な存在である。心が自ら陽気遊山に向かう時、現実はずくに変わり始める。この図表は、世の中の事象・現象を全て解き明かすものである。深く思索してみてほしい。

※「理」＝事實・要因

自分ではなく、周りを立てる心。普段は見えない陰で下から支え、大事な所で俊敏に足を運びつづけて支える。局面を見極める洞察力和仲間(他の骨)との密接な連携が欠かせない。

足の役割。 頭低く、影で下の方から支える柱の働き。
ここぞという所で俊敏に硬化する働き

不足（くもよみ 過剰）：
物事の表面部分が目について、隠れた長所や本質に気付かず、或いは句を見誤り、引き出せない状態。長所や良さを潰してしまう状態。

陽3: 陰7

⑨をふとのべ

体内: 出産時に子を引き出す働き
身長,爪,毛髪の成長、思い出す、閃き

世界: 引き出し一切、潜在的な
ものを引き出す働き、教育
動植物の成長

ぬくもりが陰の働きを引き出す、実りの働き。
動植物の成長は、日光によって引き出される。

聞き上手が話し上手に。 勇み心を八方へ。

過剰（たいしょく天不足）：
受け手にとって、風がしつこい状態。暴風・台風状
態。両者の声や思いが通らない。受ける側は身動きが
取れず、聞き分け、嗅ぎ分けできない。肥（声）をや
り過ぎ、乾いて枯れた状態。

不足（たいしょく・天過剰）：
受け手にとって、風通しが悪い状態。言葉足らずで心がじめじめと腐る状態。湿気、陰気臭い、しけた顔、ため息、臭かしい、虫がわく、カビ。また過度に閉め切る為に着る、金切声（耳障り）の状態。陰口、愚痴、毒舌を吐く、愛想相しか、切り口と、捨て言葉、排謔中傷

挨拶は風の働き。 声は肥。相手の状態に合わせて
自ら吹かそう。 柔軟にかける言葉は変えよう。

言葉は命

物事が
思えて

をもちり不足時:

貧血、極寒、低体温

物事の起点となり、ほこりや汚れを洗い流す澄んだ水の心。冷静で、広大な海の心。目の前ではなく、遠くの景色を見る。落ち着く。気長にやさしく。物事の根を綺麗にする心。見えない陰で尽くす楽しみ。"目は心の窓" 眼は心根の現れ。

くにとこたち不足時:
高血圧、不安症
ストレス過多、高熱、過緊
不眠症、眼の身上 etc.

どこまでも、ひくい、やさし
すなおな心、真実の心で

が新たな楽しみへ転じ変わる。

自分をまとう欲(泥
いんねん, 運命を切り

『この道は言うて聞かす道やない。行つて見せる道や』
自ら勇んで通り、その姿を周りと社会へ映していく時
世界が変わってくる。逞しい往還道へと繋がっていく。
また、見聞き、経験する事象、現象が、なぜ、どういう理で現れた
のか、"自分は"どういう理を尽くすのか、自ら思索し悟ることが
大事になってくる。同じ物事でても見方が変われば、景色が変わ
る。全て心通りに映っていく。

死ぬというのは、着れなくなった
衣服を脱ぎ捨てるのと同じこと。

過剰（かしこね 不足）：
物事が処理しきれず、その状況を断ち切る状態。
暇が勝手に下がってくる状態。

不足（かしこね 過剰）：
物事への執着が強くなり、先案じや保身の考えが先行して、先へ進めない状態。不安や心配などで、踏み切れない状態。割り切れず思い切れず、諦め切れぬ、はじけぬが、切れ味が悪い、保守的

過剰（をふとのべ不足）：
物事を強引に受け入れ、闇雲に流れてしまう状態。暴飲暴食・下痢状態。咀嚼しきれず、味わえず、消化・吸収できず。大雨洪水状態。
物忘れの傾向。

不足（をふとのべ過剰）：
物事を柔軟に受け入れず、偏れに反して物事に執着し手放さない状態。流れ、拒否or便秘状態。干ばつ状態。過去や現状に執着し、老廃物を流せない状態。嫌な事が頭に浮かび、忘れられない傾向

→過剰&不足: 物事が身に付かず、朝を迎えられない。新たな清々しい空気、新鮮な景色を迎えられない、無理な辛抱や我慢

柔軟に流れに合わせて。 苦(≡雲)のない循環はない。

心が消化・吸収・排泄を
物事の循環を生み出す。

人を助ける処に、自分が助かる。
相手とともに、皆で助かっていく道。

ヒント!

【二つ一つの理とその均衡】
対になる働きは助け合い、シーソーの

①くにとこたち: ②をもたり
③いざなぎ: ④いざなみ
⑤くにとさつち: ⑥月よみ
⑦くもよみ: ⑧をふとのべ
⑨かしこね: ⑩たいしよく天

隣り合う動きも夫々似ており運動している。なので、この図は3Dで立体視することも可能である。

HP:<https://karakosha.net/voukivusa>

